

2019年7月14日(日)朝10:10～ 主の聖霊降臨節第6、アシュラム等
7月第2共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：私たちの病を負い仕えてくださる主 (17節)

聖書:マタイ 8章14～17節

＜口語訳＞

新約聖書11～ 頁

マタイ 8章14～17節

＜新共同訳＞

新約聖書13～14頁

マタイ 8章14～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書13～14頁

マタイ 8章14～17節＜塚本訳＞

新約聖書87～88頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き
によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
 - ◇本日の**マタイ:14～17**は、**主イエス・キリスト様**が、**ペテロの姑の熱病や悪霊につかれ人々を癒して、(マタイ8:17で引用の)イザヤ53:4**の通り預言を成就して下さったことを記しています。
 - ◇先週の**マタイ8:10b～12**では、「**主イエス・キリスト様**」が「**百人隊長の神信仰**」を「**褒め**」た後、「**御国の子ら・ユダヤ人ら**」が「**天の国**」から**放り出(追い出)**される警告がなされた。
 - ◇**使徒マタイ**が、**ツアラートらい病・ハンセン氏病、中風(脳卒中・脳梗塞)、今週のペテロの姑の熱病等の癒し**の目的は、「**御子イエス・キリスト様**」が、あらゆる人々の病を背負って下さったことをあかしするためです。
- ⇒「**神信仰**」は、**使徒マタイ**ら主の弟子たちの**共通(共観)**した思いでした。

本論；

◇本日、**マタイ書8章14～17節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ8章14～17節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**権威ある者**」として、「**御国の子ら**」に警告を与え、「**罪を背負う者**」でもあることを「**御国の子ら**」に示めされます。

◇**14～15節**；塚本訳◆**ペテロの姑**

「14 イエスはペテロの家に行って、その姑が熱病でねているのを御覧になった。

15 その手におさわりになると、熱が取れ、彼女は起き上がってイエスをもてなした。」

◇**16～17節**；塚本訳◆**病気の治療**

「16 夕方になると、人々は悪鬼につかれた者を大勢イエスのところにつれて来た。イエスは言葉をもって霊どもを追い出し、また一人のこらず病人をなおされた。

17 『彼はわたし達の煩いを除き、病気を取り去るであろう』と、預言者イザヤをもって言われた言葉が成就するためであった。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**14～15節**；「イエスはペテロの家に行って、その姑が熱病でねているのを御覧になった」、「その手におさわりになると、熱が取れ、彼女は起き上がってイエスをもてなした」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「漁師の家」で、「**熱病**」で横たえられているペテロの妻の母・義母を「**癒して**」下さいました。

⇒マルコ1:32やルカ4:40の記事を見ると、ペテロの義母が**癒された**のは、土曜・安息日でした。しかも、マルコによると、「**ツアラート・ハンセン氏病の癒し**」は、姑の「**癒し**」の後になっています。明らかに**使徒マタイ**が編集していることが分かります。**使徒マタイ**は、病気の人々がみな**癒された**ことを記録しますが、マルコ・ルカ福音書は、多くの人々が**癒された**と記録しています。

⇒ユダヤ人は、「**御国の子ら**」と、**主**から非難されましたが、**癒し**が行われ、多くの人々が、**癒し**に関心を寄せている時でも、**神礼拝**を忠実に守っていたのです。

⇒「**癒し**」も、**御子イエス・キリスト様**から赴かれたのは、姑が初めてなのです。

⇒**使徒マタイ**は、他の記者とともに**姑の癒し**を主の特別な思いからの業であると見ています。事実、I コリント9:5によるとペテロの妻は、伝道に随行しています。姑も信仰を持ったでしょうから、一家上げて伝道するようペテロを励ます目的がありました。

◇**16～17節**；「夕方になると、人々は悪鬼につかれた者を大勢イエスのところにつれて来た。イエスは言葉をもって霊どもを追い出し、また一人のこらず病人をなおされた」、「『彼はわたし達の煩いを除き、病気を取り去るであろう』と、預言者イザヤをもって言われた言葉(**イザヤ53:4**)が成就するためであった」と、「**御子イエス・キリスト様**」が、「**病気**」の人々をなおされるとともに、「**煩い**」を「**除かれた**」のです。

⇒**SY師**は、病気の時、①教会、特に牧師、長老に連絡し、オリーブ油を塗って祈ってもらうこと(ヤコブ5:14～15)、②お互いに罪を告白し合うことを勧めておられます(IIコリント12:9)。

- ⇒また、**SY師**は、「病院(ホスピタル)とは、歓迎所、接待所、宿所と言う意味の言葉です。中世ヨーロッパの十字軍の傷病兵をもてないたのが発端で、特に病院は、キリスト者のもてなしから発生した。」と。今は、病院がもっぱら肉体的なことに集中し、キリスト者が始めた病院で、医療に依存し、牧師や長老を招いて祈ってもらうことを怠っていると嘆いている。
- ⇒**HS氏**は、「ホスピス」を始められましたが、患者の生き方を優先することを勧めて下さいました。本人も、病院の往診を受けつつも、自宅で息子のお嫁さんの世話を受け、主のみもとへ帰って行かれました。
- ⇒教会は、霊的に「**イエス・キリスト様の体**」ですから、心病む人、心の弱さを感じる人、肉体の病や疲れを負う者が安心して、主にお会いする場です。人間的最高の医術はあいませんが、肉体と霊を支配される最高の医師は、主ご自身です。
- ⇒イザヤ53:11;「義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う」の預言の通り、今も、主は生きておられます。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ:14～17**は、**主イエス・キリスト様**が、**ペテロの姑の熱病**や**悪霊につかれ人々を癒して**、(**マタイ8:17**で引用の)**イザヤ53:4**の通り**預言**を成就して下さったことを記しています。
- ◇先週の**マタイ8:10b～12**では、「**主イエス・キリスト様**」が「**百人隊長の神信仰**」を「**褒め**」た後、「**御国の子ら・ユダヤ人ら**」が「**天の国**」から**放り出(追い出)**される警告がなされた。
- ◇**使徒マタイ**が、**ツアラートらい病・ハンセン氏病、中風(脳卒中・脳梗塞)**、**今週のペテロの姑の熱病等の癒し**の目的は、「**御子イエス・キリスト様**」が、あらゆる人々の病を背負って下さったことをあかしするためです。

⇒「**神信仰**」は、**使徒マタイ**ら主の弟子たちの共通(**共観**)した思いでした。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、教会のかしらであり、体です。教会の神経の末端まで、痛みや弱さを理解し、全身で感じていて下さいます。

⇒私たちの役目は、思い煩うことではなく、霊的にも、肉体的にも、病める人々や自分自身を主の足元へ持ち運ぶことです。

⇒ピリピ⁴:6~7;「【口語訳】

6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであらう。」